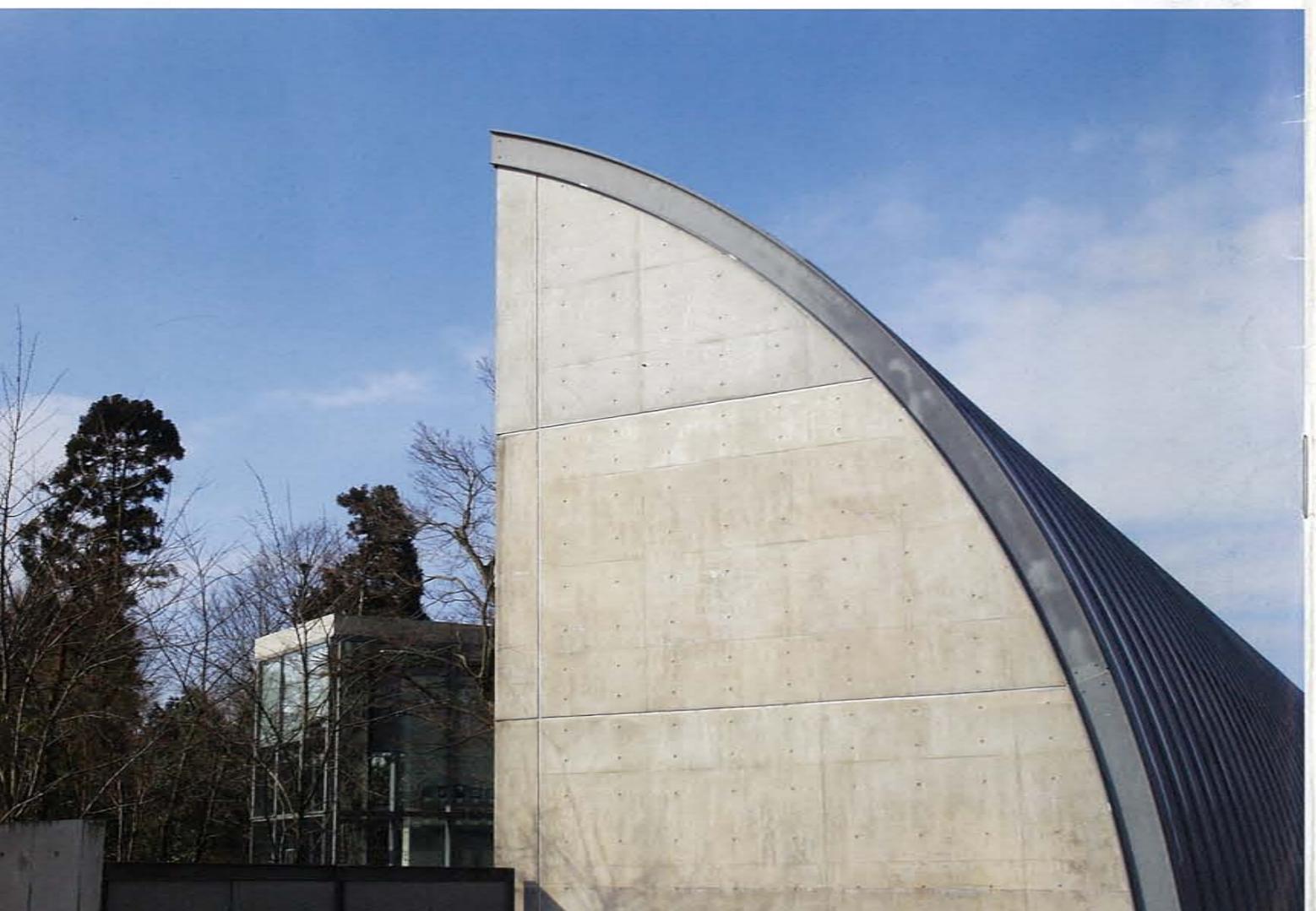


MOVIN'

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

未来へ残す町のデザイン
高岡市福岡町
特集
パワーオブ・アジアンデザイン
アジアデザインの力
展

2006 vol. 15



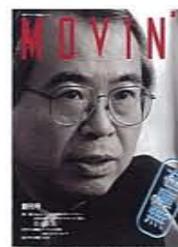
ISSN 0918-7111

MOVIN'

バックナンバープレゼント

ご希望のナンバーがございましたら下記までお申し込みください。各号、先着100名様に無料で差しあげます。なお、送料はご負担いただきます。

■官製ハガキにてお申し込みください…裏面に、ご住所・氏名・職業・勤務先名を明記のうえ①希望のナンバー(複数号可能)②興味のあった記事③本誌に対するご意見をお書きください。先着100名様に無料進呈いたします。なお、送料は本人負担(宅配便にて着払い)となります。また、各号お一人一冊とさせていただきます(1号・2号は在庫がありませんのでご了承ください)。※締切/平成18年8月31日消印有効



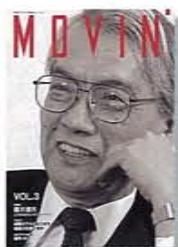
vol.1

特集/松永 真「高岡イメージポスターを制作して」WAY
/伝統工芸とコンピュータ街・デザイン探訪/金屋町



vol.2

特集/黒川雅之「モノづくりの世界」WAY
/NEWS/クレアグループ 街・デザイン探訪/山町の土蔵造り



vol.3

特集/黒木精夫「これからのモノづくりとデザイン」WAY
/アルミ加工産業・和菓子業界 街・デザイン探訪/港町「伏木」



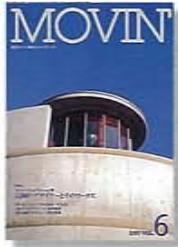
vol.4

特集/平野拓夫「これからのデザイン環境」WAY
/高岡の花籠 街・デザイン探訪/八丁道



vol.5

特集/池田満寿夫「アートと日本」WAY
/カタクレムス 街・デザイン探訪/吉久



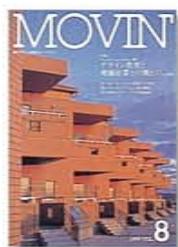
vol.6

特集/高岡のデザイナーとそのワークス モノづくりの情景
/那金師 私のグッドなプロダクト 斎藤克彦 私と高岡クラフトコンペ/羽生野亞



vol.7

特集/高岡とクラフト モノづくりの情景/塗師 私のグッドなプロダクト /森山明子 私と高岡クラフトコンペ/金子達



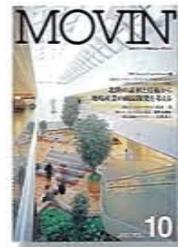
vol.8

特集/デザイン教育と地域産業 モノづくりの情景/原型師 私のグッドなプロダクト /杉本貴志 私と高岡クラフトコンペ/下尾和彦



vol.9

特集/高岡市デザイン・工芸センター モノづくりの情景/鍛金家 私のグッドなプロダクト /川上元美 私と高岡クラフトコンペ/町田俊一



vol.10

特集/北陸4県の「素材と技術展」モノづくりの情景/指物木地師 私のグッドなプロダクト /松永 真 私と高岡クラフトコンペ/太田真人



vol.11

特集/高岡発ユニバーサルデザイン YOUNG MEISTER /木型師 審査員が買ったクラフト /芦原太郎 未来へ残す町のデザイン/高岡山町筋



vol.12

特集/サステナブルデザイン フェスタ YOUNG MEISTER /銀細工 審査員が買ったクラフト /山田節子 未来へ残す町のデザイン/高岡金屋町



vol.13

特集1/ハイヒルプロジェクト 特集2/ドイツのグッドデザイン賞 YOUNG MEISTER/着色師 審査員が買ったクラフト /内田繁 未来へ残す町のデザイン/高岡吉久



vol.14

特集1/ハイヒルプロジェクト 特集2/ドイツのグッドデザイン賞 YOUNG MEISTER/TSM 審査員が買ったクラフト /伊藤隆道 未来へ残す町のデザイン/高岡伏木

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

VOL.15 2006年3月31日発行

発行

高岡市デザイン・工芸センター

〒939-1119 高岡市オフィスパーク5番地
Tel 0766-62-0520 Fax 0766-62-0521
<http://www.suncenter.co.jp/takaoka/>
E-mail: tdcc@suncenter.co.jp

企画・編集・印刷

相互企画印刷株式会社

12100 本誌は古紙100%の再生紙を使用しています。

デイベッド／フィリピン／
EVOLVE DESIGNS INC
昔から親しまれてきた天然織
組の床や、寝心地を考えて波
状にもちあがったという印象。
意外なほどにリラックスできる。



【※1】アセアン…東南アジア諸国連合
(ASEAN)と呼ばれている地域協力機
構のこと。地域の政治や経済・社会・文化
的発展の促進などを目的として1967年に
設立され、現在10カ国が加盟している。
【※2】国際機関日本アセアンセンター…
1981年に日本とアセアン諸国の政府によ
って設立された国際機関で、アセアンか
ら日本への輸出、日本からアセアンへの
投資と観光を促進する活動を行っている。



ダイニングチェア／タイ／
Yothaka International
Co., Ltd.
ブライウッドの座面とラタンの
背の組み合わせがユニーク。
背のラタン編みの面に同じ太
さの樹脂製の紐を組み合わ
せて編み上げている。



枕／フィリピン／
S.C. Vizcarra, Inc.
(右)アバカ材と自国産の天然
皮革を編み上げた。編み始め
と編み終わりの始末の巧さに
よって、つなぎ目がなく見える。
サイズ、カラーともに多様なオ
ーダーへの対応が可能で、ユ
ーザーの意向に応える商品開
発を実践している。(左)ファイ
バー材を充填した中綿を、同様
に編み上げたクッション。



花瓶・バーティション／
フィリピン／
The Gilded Expressions
リボン状のスチールを溶接しな
がら円形に形づくったインテリ
オブジェ。



花瓶／タイ／
Decor Vivant Co., Ltd.
マンゴーの木を素材としたフ
ラワーベース。3段で組み立
てられているが継ぎ目が目立
つことなく美しく、仕上げの完
成度も高い。



豊かでまさに「デザイン」と素材の宝庫。
欧米仕込みの「デザインセンス」と天然
の素材、そして巧みな手仕事を組み
合わせた製品には、人の心を和ませ
る温もりや優しさがある。

今回のメイン展示である「アセアン
デザインセレクション」もまた、同様
の魅力を会場いっぱいに放ち、多く
の来場者を魅了した。そもそも同セ
レクションは、国際機関日本アセアン
センターがアセアンらしいデザイン
を日本のビジネス界や消費者に紹介
するため、(財)日本産業デザイン振興
会の協力を得てグッドデザイン賞(G
マーク)の中に設けたもの。Gマーク
の制度をそのまま採用し、デザイン
の良さだけでなく、品質や使い勝手
の良さ、さらには企業の姿勢をも評



アームチェア／タイ／
Sukhumvit 43 Co., Ltd.
幾何学的な彫刻のような特
徴あるフォルムのソファ。ラタ
ンを材料に平らな面構成で精
度高く編み上げられている。

花瓶／タイ／
Pawo Co., Ltd.
東南アジアの種子植物の種
子をモチーフにした、ブロンズ
の一輪挿し。ロストワックス製
法で精密に形づくられている。



チェア／シンガポール／The Lifeshop Pte. Ltd.
チーク合板をアームと背板に使用した、深いシートが特徴の2人掛け。日本ではこれま
であまり見られなかった大型のチェアではあるが、モダンな表情と求めやすい価格は、
新しい生活シーンの創造やリゾートや旅館など、新たな市場を生むことが期待される。



The Power of Asian Design

【特集】パワー・オブ・アジアンデザイン アジアデザインの力 展

ひとくちに「アジア」といっても範囲
は広く、伝統や生活様式もさまざま。
例えばアセアンには、インドネシア、
フィリピン、ベトナム、タイ、ミャンマー、
マレーシア、カンボジア、ラオス、シン
ガポール、ブルネイの10カ国があるが、
その多くは欧米の植民地支配の歴史
を持ち、欧米文化の流れを汲んでいる。
また、家具などの原材料として使わ
れるウォーターヒヤシンスやアバカ、
ラタン、チークといった自然の恵みも

「アセアンデザインセレクション」商品
約60点と、韓国、シンガポール、台湾、
香港各国の「デザイン賞(2000)」
2002年(受賞商品約20点)を紹
介した。

高岡市「デザイン・工芸センター」で
は、こうした勢いあるアジアの「デザ
イン」に潜む国際化戦略を学ぼうと、
「パワー・オブ・アジアンデザイン—ア
セアンデザインセレクション」商品
約60点と、韓国、シンガポール、台湾、
香港各国の「デザイン賞(2000)」
2002年(受賞商品約20点)を紹
介した。

だが近年は、デザイン・品質とともにす
ぐれた製品といつもイメージづくりを

始めた日本でも心地よい暮らしを求
める人々に注目され人気が高まっ

ている。

近ごろ、アジアの「デザイン」は元気
がいい。ひと昔前まで、世界は日本以
外のアジア諸国を生産国としてし
か見ていかなかった。中国といえば安
い労働力が売りで、アセアン製品はチ
ープな民芸品や土産物のイメージ…。

だが近年は、デザイン・品質とともにす
ぐれた製品といつもイメージづくりを

始めた日本でも心地よい暮らしを求
める人々に注目され人気が高まっ

ている。



テーブルウェア／インドネシア
／PT Genii Kurir Jauhar
Servisindo
ラタンを構造材に、い草あるいはバナナの葉で組み上げたバ
スケット。エコロジーに配慮しながら、使いやすいデザインを導
いた点が評価された。



パーティション／タイ／
The Europa Operations
Co., Ltd.
構成の変化により多彩な表
情や機能を創出させる大変
面白い試みの商品。



椅子／タイ／
Planet 2001 Co., Ltd.
インパクトのある外観デザ
インでありながら、座り心地
がとても良いラタンを素材
とした椅子。





価してアセアン各国の商品を日本市場に紹介し、国際競争力のある商品に育てていこうとの趣旨で2002年度からスタートした。

会場には自然との共生をテーマに、素材を生かした手仕事の技が光る商品が数多く並ぶ。入口中央に置かれた高さ3mほどの大きなラタンのソファ（フィリピン）を筆頭に、シーグラスの繊維を素材とした照明（インドネシア）、マンゴーの木を用いた花瓶（タイ）などが目を引く。訪れた人々はソファに寝転んだり花器やテーブルウェアに触ったりしながら洗練されたアンティークデザインを楽しんでいた。アンティークでも、「手づくり品質の良さが分かった」、「デザインも品質も良く、アジア・雑貨のイメージが変化していく」といった声があつた。

この他、アルミニウムのジュースパッケージをバッグにリサイクルする（フィリピン）のNPOや、女性の自立を目指したシルク商品づくりを展開するカンボジアの団体など、デザインの視点を踏まえたユニークな企業活動が活発化してきた。環境と経済の両面を考えた商品開発、その姿勢を学ぶ意味でも、しばらくアジアのデザインから目が離せなくなりそうだ。



会場には自然との共生をテーマに、素材を生かした手仕事の技が光る商品が数多く並ぶ。入口中央に置かれた高さ3mほどの大きなラタンのソファ（フィリピン）を筆頭に、シーグラスの繊維を素材とした照明（インドネシア）、マンゴーの木を用いた花瓶（タイ）などが目を引く。訪れた人々はソファに寝転んだり花器やテーブルウェアに触ったりしながら洗練されたアンティークデザインを楽しんでいた。アンティークでも、「手づくり品質の良さが分かった」、「デザインも品質も良く、アジア・雑貨のイメージが変わっている」といった声があつた。





〔写真1〕J-/渡辺雅志／氏家漆器㈱、守工房、島田映
〔写真2〕アルミの茶室／貴志雅樹／〔社〕高岡アルミニウム懇話会、
STプロダクツ㈱、三協アルミニウム工業㈱、
株広上製作所 〔写真3〕geibun dotto 葉子／前田一樹／こし村百味堂

芸術文化学部の教員と地域の企業や職人による「伝統と革新」展

富山県内の3つの国立大学法人・富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学が再編・統合して平成17年10月1日、「新・富山大学」が開学した。その内、高岡市一上町にキャンパスを置く高岡短期大学は、富山大学芸術文化学部として再スタートを切った。「コースは造形芸術、デザイン工芸、デザイン情報、造形建築科学、文化マネジメント」の5つ。

ものづくりの町・高岡の産業界とも深く関わりながら、地域に根ざした特色ある学部づくりを目指すといふ。

富山県内の3つの国立大学法人・富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期大学が再編・統合して平成17年10月1日、「新・富山大学」が開学した。その内、高岡市一上町にキャンバスを置く高岡短期大学は、富山大学芸術文化学部として再スタートを切った。「コースは造形芸術、デザイン工芸、デザイン情報、造形建築科学、文化マネジメント」の5つ。

ものづくりの町・高岡の産業界とも深く関わりながら、地域に根ざした特色ある学部づくりを目指すといふ。

そんな未来の大学像を象徴するかのように、作品展が同年9月16日から10月16日まで、高岡市美術館で開催された。

高岡短大ではこれまで、授業のオブザーバーとして地場の職人やデザイナーを招き学生との交流を図ってきたが、今回のように教員とのものづくり

による交流は初の試みとなる。これについて同展の実行委員で富山大学芸術文化学部講師の渡辺雅志さんは、「新学部は『高岡全体がキャンバス』という考え方。学生が職人や企業の仕事場へ出かけ技術や社会性を身に付けることはむとよめています。教員と地域が連携して新しい何かを生み出すという試みは、良質なものづくり、ひいては高岡の産業振興の足がかりになるはずですから」と産学連携の意義を熱く語った。

会場には、複数のアルミ関連企業の協力で実現した女性でも簡単に組立可能なアルミ製茶室、織製加工のノウハウを採り入れた和紙のショルダーバッグ、口当たりの良さや高級感を持たせようと試作を重ねた漆塗りのグラス、アルミニウム铸造技術で見えない形をカタチにした家具など、デザインと技術との融合のメ



J-plate／菊藤晴之
布目漆器店、武藏川工房、塩谷製作所、寿し「江戸一」
MIRAGE (蜃気楼)／長山信一
中村美術工芸、株崎安
"fragile" side table／内藤裕孝
株平和合金、南鳩モダリング
BOWL-Brass & Glass-／中村亮雄
株能作、富山ガラス造形研究所、所志帆、日石硝子工業㈱

「伝統と革新」展

X 新学部の創設記念で 产学連携

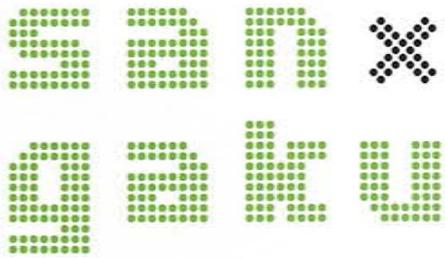
富山県内の3つの国立大学法人・富山大学・富山医科薬科大学・高岡短期

大学が再編・統合して平成17年10月1日、「新・富山大学」が開学した。その内、

高岡市一上町にキャンバスを置く高岡



塗装デザインによるデモンストレーションミニカー／安達博文
昭和自動車㈱、南タケオカ自動車工芸



Key Persons 5

ものづくりの町からの デザインムーブメント

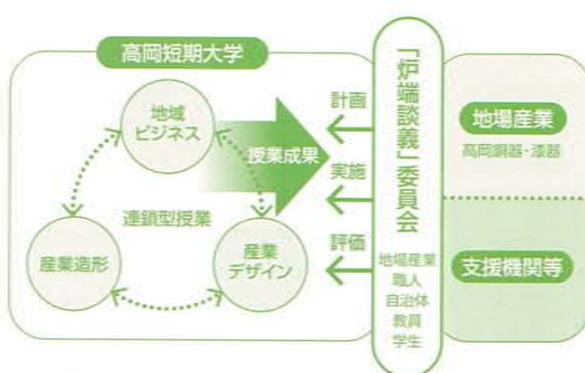
富山大学芸術文化学部の創設を機に、いよいよ本格化を迎えた産学連携のものづくり。



高岡といえば、押しも押されぬものづくりの集積地。アルミや銅器・漆器などの産業が根づくこの町で、最近「産学連携のものづくり」が活発化してきた。これまで緩やかな動きはあったものの、ここにきて注目され始めたのは新「富山大学芸術文化学部」への期待の高まりだろう。地場産業界が産学連携のものづくりを新たなビジネスチャンスとするために大切なことは何か。今、新たに動き出したユニークな取り組みを紹介する中で考えてみたい。



炉端談義・その他のプロジェクトより
〔写真1〕「高岡銅器の鋳物技術を応用した日用品」Soap Tray／産業デザイン学科1年 石丸千志子 〔写真2〕「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」SUGIKI-杉器／専攻科産業造形専攻1年 上田祐章子 〔写真3〕「漆製品の新商品開発」かんざし／専攻科産業造形専攻1年 上野明子・平野葉（高岡漆器青年会 内田和弘・武藏川剛嗣）



〔※1〕炉端談義方式…鍛込み場に集まって職人が物に触れながら論議するスタイルを目指して名付けた。この特色ある授業は、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されている。

ち産業界が連携している意義がありません。学生さんはぜひ、「デザイン、製造、流通を含めた現実的なものづくりを学んでほしい。もちろん、これから新しい仕事につなげる努力は惜しません」とプロジェクトへの意気込みを語ります。

- 7月31日／東京のセレクトショップを見学
- 8月1日／東京でバイヤーと打ち合わせ。箸置き・酒器・皿・カトラリーなどの金属製品のデザイン案を要望される
- 9月26日／新商品のデザイン26点を提案
- 10月14日／デザイン20点を再提案
- 12月7日／6点の商品化が決定（内、2点は能作での採用）

流通の現場を知る 貴重な機会

このように約4ヶ月をかけてようやく商品化の約束手形を取り付けたのだが

○7月31日／東京のセレクトショップ

○8月1日／東京でバイヤーと打ち合

わせ。箸置き・酒器・皿・カ

トラリーなどの金属製品

のデザイン案を要望される

○9月26日／新商品のデザイン26点を

提案

○10月12日／ぐい呑み・片口・香立てに絞り、全デザインを見直し

○11月14日／デザイン20点を再提案

○12月7日／6点の商品化が決定（内、2点は能作での採用）

違いを改めて感じた。少しは、市場に求められるデザインを意識するようになりました」、専攻科2年の路川順規さん

は「バイヤーさんから『はてサイン』につい

ての細かい指示がないので、要望が掴みにくく難しかった。でも試行錯誤した

分だけ、商品としての魅力は深まった

ようだ。実際に、商品としての魅力は深まっ

た。一度すべてのデザイン案が却下された時には、担当のバイヤーから「シ

ンプルの『ハーフセイフ』をしっかりと把握す

るみたい」との要望が付け加えられた。

確かに最初のデザイン案は、どれも学生自身が思い描く「良いもの」という観

点からの発想だったので、不採用の理由が明確で学生たちも納得したようです。

「どうりタイヤするか」と問いかけた

い、全員が再挑戦する」と回答したも

のですから、慌ててバイヤーが送つてしま

れたショットのパンフレットを渡しました」と、清水助教授。専攻科1年の石垣

妙さんは「店頭に並ぶ商品と作品との

違いを改めて感じた。少しは、市場に求

められるデザインを意識するようにな

りました」、専攻科2年の路川順規さん

は「バイヤーさんから『はてサイン』につい

ての細かい指示がないので、要望が掴み

にくく難しかった。でも試行錯誤した

分だけ、商品としての魅力は深まっ

た。一度すべてのデザイン案が却下さ

れた時に、担当のバイヤーから「シ

ンプルの『ハーフセイフ』をしっかりと把握す

るみたい」との要望が付け加えられた。

確かに最初のデザイン案は、どれも学

生自身が思い描く「良いもの」という観

点からの発想だったので、不採用の理由

が明確で学生たちも納得したようです。

「どうりタイヤするか」と問いかけた

い、全員が再挑戦する」と回答したも

のですから、慌ててバイヤーが送つてしま

ったショットのパンフレットを渡しました」と、清水助教授。専攻科1年の石垣

妙さんは「店頭に並ぶ商品と作品との



guinomiの試作品／
専攻科産業造形専攻1年 塚越絵美子



富山大学高岡短期大学部専攻科で
炉端談義プロジェクト
授業で
商品化をめざす



〔写真1〕東京のセレクトショップにて担当バイヤーとの打ち合わせ 〔写真2〕デザイン案 〔写真3〕鋳造用の木型 〔写真4〕試作品のぐい呑みや片口に水を入れて使い心地や容量をチェック 〔写真5〕片口の試作品／専攻科産業造形専攻1年 石垣妙



エッジ／小松研治
株高田製作所



ショルダーバッグ・カードケース／今瀬純子
庵桂樹舎、BAG・PURSEどねどね

リストを生かした作品が目立つ。また、新しい実用品制作への手がかりとして、アルミ鋳物の磨き技術や塗装のさまざまな技法に着目した、提案型の造形作品も幾つかあった。

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

金属工芸を学ぶ学生と地元の銅器メーカーが、「セレクトショップのバイヤーの意見に基づいて、商品開発プロジェクト」に取り組んでいます。これは同短大が平成16年度から進める「炉端談義方式による地場産業活性化授業」の環で、商

品開発を軸に、製造者、販売者、学生との連携を深め、地場産業の活性化に貢献しようとすることです。炉端談義には同学部の清水克朗助教授、専攻科産業造形専攻の学生5名、銅器メーカーの能作克治さん（能作代表）が参加し、消費者の動向に精通したセレクトショップのバイヤーから「セレクトショップ」には、商品化を最終目標としている点だ。新商品のデザインおよび試作品を制作する。

その、このプロジェクトの面白さとい

うは、東京自由が丘のセレクトショップでの商品化を最終目標としている点だ。提案者の能作さんは「ただデザインして物をつくつただけで終わっては、私た

が、」「セレクトショップのバイヤーの意見に基づいて、商品開発プロジェクト」に取り組んでいます。これは同短大が平成16年度から進める「炉端談義方式による地場産業活性化授業」の環で、商

品開発を軸に、製造者、販売者、学生との連携を深め、地場産業の活性化に貢献しようとすることです。炉端談義には同学部の清水克朗助教授、専攻科産業造形専攻の学生5名、銅器メーカーの能作克治さん（能作代表）が参加し、消費者の動向に精通したセレクトショップのバイヤーから「セレクトショップ」には、商品化を最終目標としている点だ。新商品のデザインおよび試作品を制作する。

その、このプロジェクトの面白さとい

うは、展示会を見る限り、高岡連携は順風満帆のように思えるが、実は少しづつ浮き彫りになった問題もある。関係者対象のアンケートによると、「職人や企業は、デザインへの理解が足りない」、「教員には、地場産業界の現状を常に把握しておいてほしい」、などといった意見も少なからずあった。教員と産業界の仲人役、そして書販師のひとりとしても同展に参加した伝統工芸高岡漆器協同組合副理事長の武藏川義則さんは、「高岡の産業界は、新学部との産学連携に熱い期待を寄せてい

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

その、このプロジェクトの面白さとい

うは、展示会を見る限り、高岡連携は順風満帆のように思えるが、実は少しづつ浮き彫りになった問題もある。関係者対象のアンケートによると、「職人や企業は、デザインへの理解が足りない」、「教員には、地場産業界の現状を常に把握しておいてほしい」、などといった意見も少なからずあった。教員と産業界の仲人役、そして書販師のひとりとしても同展に参加した伝統工芸高岡漆器協同組合副理事長の武藏川義則さんは、「高岡の産業界は、新学部との産学連携に熱い期待を寄せてい

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

ます。ただ今回に限っていつと、先生方から提案される斬新なアイデアやデザインの具現化に困惑したり、納期や経費などで、そこから生まれる新しい技術や作品も幾つかありました。

その、このプロジェクトの面白さとい

铸造メーカーが自社ブランド設立

高岡の伝統技術とデザインを融合した アルミ花器「fiori chiari」発売

問 株式会社高田製作所 tel 0766-63-6800

高岡市戸出にある铸造メーカー・高田製作所が昨年、自社ブランド「フィオーリ キアーリ(イタリア語で輝く聰明な花の意)」を立ち上げ、国内外の見本市や展示会に出展。本格的な製造・販売に乗り出した。

このブランドは平成15年、同社若手社員が社外活動として始めた商品開発プロジェクトに端を発する。メンバーはミラノ在住デザイナー・加賀武見さんのアドバイスを受けながら、同社の主力である仏具製造で培った铸造技術を生かしたアルミプロダクトを制作。平成16年春、ミラノサローネに出品し、高い評価を受けたことから自社ブランドを設立した。昨年4月には、ミラノサローネで新作アルミ花器9点を発表、さらに10月には東京ビッグサイトで開かれた日本最大のガーデニング業界見本市「東京国際フラワーエキスポIFEX 2005」に出展。そして12月、社内にフィオーリ キアーリ事業部を正式に立ち上げた。

「ミラノサローネではデザインと品質が認められました。日本においても良いスタートが切れたと思います」と、メンバーの高田晃一さん。

商品は昨年、東京都内のインテリアショップやフラワーショップで販売がスタート。今年3月からは銀座三越にも専用コーナーが設置され、現在、予想を上回る受注増にフル生産体制が続いているという。



Toyama



Legato



東京のIFEXには加賀武見さんと親交の深いイタリア人デザイナー、ニコラ・ガリッティアさんも来日。

独自の技法で、人間国宝に

大澤光民さん 国の重要無形文化財保持者に認定

高岡市在住の焼型铸造作家・大澤光民(本名・幸勝)さんが昨年9月、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。高岡市では故・金森映井智さんに続いて2人目。高岡伝統の铸造分野からは初の認定となる。

大澤さんは昭和16年生まれ。県立職業指導所で铸造の基礎を学んだ後、市内の銅器製作所に就職し、焼型铸造の技術を習得。11年の修業を積み昭和44年「量産品ではなく、伝統の技術に自分の感性を吹き込んだ作品を創りたい」と、自宅に工房を構えて独立。

以後、数々の賞歴を経て現在に至っている。

大澤さんの作風を特徴づける「鋳ぐるみ法」は、鋳型の内側に銅やステンレスの金属線を仕込み、溶けた金属を流し込むことによって直接、金属線を鋳ぐるてしまう技法で、作品表面に象嵌のような美しい模様が表れる。鋳型造型から铸造まで、熟練した技能と知識が必要とされる技だが、実は、铸造物から抜き忘れた鉄筋がきっかけで生まれたもの。着色工程で異質の金属が化学反応を起こし、渋い光と共に浮



自宅工房での大澤さん。原型から鋳込み、研磨作業までほとんど一人でこなす。



鋳ぐるみ六段鋳銅花器



鋳ぐるみ鋳銅花器

かび上がった模様に感動した大澤さんは、この偶然の産物を独自の技法として昇華させた。

「真面目は大事だけど何でも計算ずくってのもつまらない。鋳ぐるみ法と合ったのも失敗が原点。予想もつかないことがあるから楽しいんです。ただ、生涯打ち込める仕事に就けたことは幸運だと思います。これからも研究を重ねて新しい表現を生み出していきたいですね」と大澤さん。

作品は、高岡市美術館や高岡地域地場産業センターなどで鑑賞することができる。

ものづくり・デザイン科

「ものづくり・デザイン科」研究指定校で 漆芸や铸造を体験する授業を実施

問 高岡市教育委員会学校教育課 tel 0766-20-1451



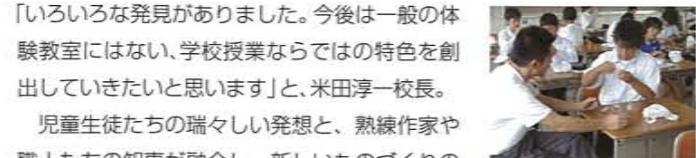
キーホルダー制作では校庭に作った砂場で鋳込みを体験。

高岡市内の小・中・養護学校では、児童生徒が地元の伝統工芸や産業について学んだり、体験したりすることで豊かな感性と郷土愛を育み、伝統技術の継承、地場産業の活性化を図っていくことを目的に、小学5・6年生と中学1・2年生を対象に「ものづくり・デザイン科」を新設。平成18年4月からの全面実施を前に昨年度、市内4つの研究指定校でモデル授業を行った。

研究指定校の一つ、志貴野中学校では1年生の必須科目として週1時間、年間35時間の授業を実施。前期は「錫のキーホルダー制作」、後期は「螺鈿細工の照明器具制作」を通して漆器や銅器の歴史や製造工程を学んだ。授業は伝統産業の歴史や製作工程を学ぶ机上演習や、銅器・漆器業界で活躍する職人を招いた体験実習、市内の施設見学など多岐に渡り、生徒たちには、高岡で培われた優れた伝統工芸技術に触れるきっかけとなった。

「いろいろな発見がありました。今後は一般的な体験教室ではない、学校授業ならではの特色を創出していくたいと思います」と、米田淳一校長。

児童生徒たちの瑞々しい発想と、熟練作家や職人たちの知恵が融合し、新しいものづくりの形が醸成されていくことを期待したい。



地元の職人を講師に迎え実践的な授業が行われた。

フランクフルト・メッセ

高岡銅器の新たな販路開拓に向けて ドイツの国際見本市に初出展

問 伝統工芸高岡銅器振興協同組合 tel 0766-24-8565

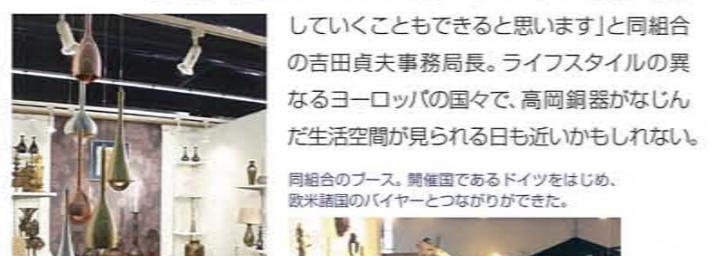
伝統工芸高岡銅器振興協同組合では、2月10日~14日の5日間、ドイツで開催された国際見本市「フランクフルト・メッセ・アンビエンテ」に伝統工芸品約70点を出展し、高岡銅器の魅力を世界にアピールした。

今回の出展は、長年低迷している伝統工芸産地の浮揚を願い、県が昨年春、海外市場開拓支援事業を助成対象にしたことから実現した。同組合ではコーディネーターのアドバイスを受け、純粋な日本の美を追求する「静寂の波動」をテーマに、香炉、風鈴、仏陀、花器、照明、着色パネルなどを選定。從来の高岡銅器を代表する伝統的な製品に加え、現代的で斬新なデザインの新製品も展示した。会期中、ブースにはバイヤーやショップオーナーら151人が来場。多くの商談があり、幾つかの受注契約も成立した。この他、モダンなデザインの腐食銅板を使ったテーブル、風鈴、風鎮などへの問い合わせも相次いだ。「例えば火立てをアロマキャンドルスタンドに、風鎮をカーテンストッパーに」とユニークな使い方の提案もありました。日本にはない新しい需要を喚起

していくこともできると思います」と同組合の吉田貞夫事務局長。ライフスタイルの異なるヨーロッパの国々で、高岡銅器がなぜじんじん生活空間が見られる日も近いかもしれない。

同組合のブース。開催国であるドイツをはじめ、欧米諸国との取引ができた。

同組合のブース。開催国であるドイツをはじめ、欧米諸国との取引ができた。



高岡工作連盟が商品開発

継続的な産地ネットワークの中で 新しいモノづくりのシステムを構築

問 高岡銅器協同組合内「高岡工作連盟」 tel 0766-23-8210

高岡銅器の作家や職人、メーカー、問屋など、各分野の専門家で結成されたモノづくり集団「高岡工作連盟」が多彩な新商品を開発。この夏「三越」での発売を照準に最終調整を進めている。

高岡工作連盟の名は20世紀初頭、ドイツの芸術家や建築家、工芸家、実業家などが工業製品の質の向上を目指して組織した「ドイツ工作連盟」に由来する。高岡のモノづくりとマーチャンダイジングを融合し、企画からデザイン、製造、流通、販売にいたる全工程を参加者全員で学び、時代に即応したモノづくりシステムを再構築していくことを目指し、昨年7月に結成した。結成後は三越のバイヤーとして活躍するデザイナー・コーディネーター・小山織さんのアドバイスを受けながら市場のニーズを収集。3グループに分かれ、玄関回りインテリア、テーブルウェア、仏具の商品開発をスタートさせた。著名デザイナーには依頼せず、地場の作家やグラ

フィックデザイナーの協力を得ながら進めていった。

「従来の補助金事業はデザイナーの提案を形にしたら終了でした。でも今回のプロジェクトは継続的な産地ネットワークの構築。まずは作って市



(株)能作とグラフィックデザイナー・中山真由美さんが中心となって開発したテーブルウェア(コースターとキャンドルホルダースタンド)のモックアップ。



(株)能作とグラフィックデザイナー・中山真由美さんが中心となって開発したテーブルウェア(コースターとキャンドルホルダースタンド)のモックアップ。

場の声を聞き、次のステップを見いだそうと、全員が会費を払い、リスクを背負いながら取り組んでいる点が違うと思います」と、メンバーの関秀道さん。

現在はモックアップが完成し、この夏の発売に向けてコストや販路、ロイヤリティー契約などを最終検討している段階。同時に地場のデザイナーやクラフト作家との新たなネットワーク構築にも取り組んでいきたいそうだ。

20回の節目に向けて、 さまざまな企画を検討中

問 高岡商工会議所内クラフトコンペ事務局 tel 0766・23・5000

平成17年10月27日から5日間にわたって開催された工芸都市高岡2005クラフト展。メイン会場の大和高岡店6階催事場には、全国のクラフトマンから寄せられた作品2,394点のうち、入選作品964点が展示された。中でも異彩を放っていたのが、グランプリ受賞作の「Bijoux(ヴィジュ)」。「食文化や住空間の変化に呼応した、器の変化を懸命に追い求める爽やかな姿勢に好感が持てる」と山田節子審査委員長(コーディネーター)の評価も高い。

また、グランプリと同様に来場者の話題を呼んだのが、「近年のテーマでもある間伐材を利用したテーブルが、美しい李朝風の座と卓に甦った」(講評:内田繁審査員/インテリアデザイナー)優秀賞の「一人膳」、そして「日本家屋やモダンティストのラグジュアリーホテルにもよく似合う」(講評:今田龍子審査員/「婦人画報」編集長)審査員賞の「水引照明 雪つり」だ。グランプリを含むこれら3作品は、来場者が好みの作品に投票する「生活者が選ぶクラフト賞」にも選ばれており、その注目度の高さ



表している。生活者が選ぶクラフト賞といえば、前回1位を獲得した青木有理子さん(富山市)の「匹で数える器」が、昨年末に商品化されたばかり。高岡市の鉄物メーカー「能作」から引き合いがあり、若干小さくすることで生産コストの問題をクリアし販売にこぎつけた。テレビや雑誌で有名な東京の景色盆栽ショップ「品品—shinajina」がコケを生けて仕上げることもあり、若い女性を中心に売れ行きは上々とのこと。今回の入選作からも、第2、第3の青木さんが生まれるかもしれない。

また、市内のクラフトショップやイベント会場30ヵ所をスタンプラリーでつなぐ「タカオカクラフトワーキーク」には、前回に引き続き大勢のクラフトファンが訪れた。今回は、各店の企画によるクラフト作家の展示に加え、「暮らしに生きる伝統のかほり展」(高岡伝統産業青年会主催)、高岡短期大学の学校祭、「たかおかクラフト体験工房」(未広開発(株)



青木有理子さんの作品は「はりねずみ」の商品名で販売中。



「暮らしに生きる伝統のかほり展」(ウイング・ウイング高岡にて)

高岡町衆サロン主催)、音楽イベント「Kikare~Ma2005」(ホームタウン実行委員会主催)など、高岡のさまざまなイベントと連携さらなる相乗効果を図ることで、クラフト展をきっかけとした高岡の賑わいづくりを目指した。

毎年配付しているチラシ広告も、過去のデータを分析し工夫することによって、前回以上の集客に貢献した。また、お祭りムードを盛り上げようと、のぼりや看板を町のあちこちに設置。その甲斐あってか、賑やかさに誘われてぶらりと展示を楽しんだり、土人形の絵付けや七宝焼きアクセサリーなどの教室に飛び入りで参加する人々も多く見られた。

初回1,162点の応募でスタートした同コンペも、次回はいよいよ記念すべき第20回を迎える。回を重ねる毎に規模、内容ともに充実し、全国のクラフトマンやデザイナー、地場産業の企業から注目されるまでに成長した。その間、幅広い分野の「一流」を審査員に迎え、常に新しい企画を盛り込むなどの積み重ねが、今日の成功に結びついたといえるだろう。

その20年にわたる軌跡を広く市民さんに知らしめるべく、現在、事務局ではさまざまなイベントを検討中だ。例えば、歴代のグランプリ受賞者のその後の活動や、歴代の審査員による招待作品、地元が生んだスター作家や企業を紹介するなど、趣向を凝らしたさまざまな展示会の開催を目指している。まだまだ企画段階だが、20回を節目として「工芸都市高岡クラフトコンペ・クラフト展」を大いにアピールし、さらなる飛躍に向けて充実させていってほしいものだ。

メイン会場の大和高岡店



ガラス作家の藤原貴紀さん・島田映さんによる「ふたり展」(B comeにて)



グランプリ「Bijoux」/青木良太さん(岐阜県)



優秀賞「一人膳」/小沼智靖さん(埼玉県)



今田龍子賞「水引照明 雪つり」/廣瀬由利子さん(石川県)

新「高岡市」市章デザイン

市章に、新市の夢と未来を託す

問 高岡市総務課 tel 0766・20・1242

平成17年11月1日、高岡市と福岡町が合併して新「高岡市」が誕生した。下のマークは、その新しい市章。「水・みどり・人 光り輝く躍動のまち 高岡」という合併後の高岡市の将来像をイメージした兵庫県神戸市の杜多としお利夫さんの作品を採用したものだ。

選考にあたったのは、金沢美術工芸大学の平野拓夫学長や富山大学芸術文化学部の前田一樹学部長を中心とする学識経験者、両市町の助役と議会議員ら8人で構成する市章選考委員会。3回の委員会を開き、全国から応募のあった2,242点の中から4作品に絞り込んだ後、住民の皆さん意見も参考にするため、住民アンケートを実施した。その結果、回答のあった1,940件のうち、最多の790件が杜多さんの作品を支持。最終的に、両市町長と選考委員会との協議を経て決定した。

市章は、高岡市の「高」の文字がモチーフ。自然と人の光り輝くまちをデザイン化し、いきいきとした人の姿で、市の活気や躍動を表現している。「リズムと調和がとれ、市政を展開していくのに動きがあってふさわしい」と平野委員長の評価も高い。現在、印刷物などに広く利用され、新「高岡市」発展のシンボルとして活躍中だ。



高岡市の新市章



「新市の発展の象徴として誰もが納得できるものを選ぼう」と、真剣な面持ちで選考に臨む委員たち。

平成17年度高岡都市美景観賞

魅力ある景観を生み出している建築物4件が受賞

問 高岡市都市整備部建築指導課 tel 0766・20・1429

今回の高岡都市美景観賞は、金属造形作家の大角勲さんをはじめ、デザインや建築などの専門家7名の委員が選考。建築物部門の優秀賞には、「ライトアップした夜景が魅力的な」ウイング・ウイング高岡、「母屋、門、隣家、樹木の一体感が見事な」村本造園、「山町筋の街並み景観に配慮している」中村漆器店、「上品でありながら落ち着きすぎない外観と色彩が、住宅地に溶け込んでいる」特別養護老人ホームのむら藤園苑の4件が選ばれた。



村本造園



特別養護老人ホームのむら藤園苑



中村漆器店

同賞は、高岡らしい都市景観づくりに貢献している建造物などを毎年表彰するもの。今回は突出した作品がなく、最優秀賞の選出が見送られる結果となった。これについて大角選考委員長は「新たな建造物が減少しているようで寂しいが、次回は福岡町との合併を機に、多くの応募が期待されるだろう」とコメントしている。



ウイング・ウイング高岡

まきえ 蒔絵の羽子板をつくろう

高岡市デザイン・工芸センターの工芸体験実習の様子を紹介するこのコーナー。

今回は、女性に人気の漆工講座「蒔絵の羽子板をつくろう」におじゃましました。蒔絵は、漆で描いた模様が乾かないうちに金・銀などの粉や色粉を蒔いて加飾する漆芸の代表的な技法のひとつ。その伝統工芸にふれながら、

自分好みのデザインを表現できる楽しさが、この講座の魅力なのでしょう。

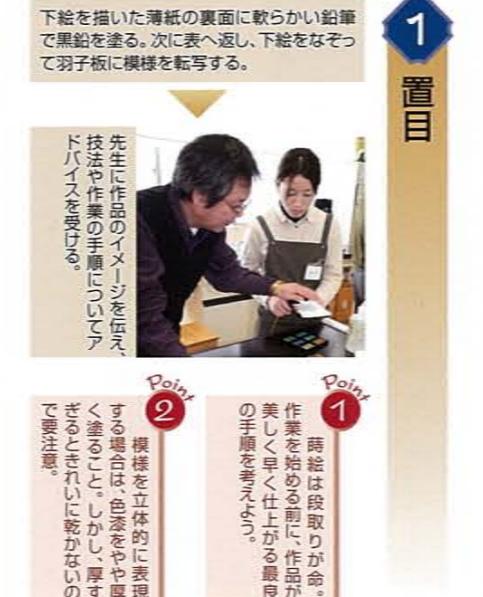
「絵画のようで楽しそう」「娘の嫁入道具にしたい」など、参加の動機はさまざまですが、悪戦苦闘の末にでき上がった作品は、皆、一生もののお宝になること間違ひなしだす。



3 「月の部分」 模様を描く→粉を蒔く



2 「うさぎの部分」 模様を描く→貝を置く→粉を蒔く



1 置目



受講生の作品



【平成18年度工芸体験実習開催予定】

■市民体験実習1回コース 15歳以上

日程	内容
平成18年 6月18日(日)	草木染めで絞りのスカーフ(網)をつくる
〃 10月15日(日)	ガラスのトンボ玉で小物をつくる

高岡市デザイン・工芸センター

<http://www.suncenter.co.jp/takaoka/>

〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク5番地 TEL0766-62-0520 FAX.0766-62-0521

日程	内容
平成18年 9月 3日(日)	アルミ缶をかじて墜掛け時計をつくる
〃 11月19日(日)	銀粘土でアクセサリーをつくる

日程	内容
平成18年 11月24日(金) 12月 1日(金) 12月 8日(金) 12月15日(金)	麻布を張って漆塗りのランチョンマット、椀、箸をつくる
〃 12月17日(日)	蒔絵の羽子板をつくる
平成19年 2月18日(日)	蒔絵のひな人形をつくる

日程	内容
平成19年 2月23日(金) 3月 2日(金) 3月 4日(日)	金属の板をたたいて食卓小物をつくる

クラフトマンズ ギャザリング2005

クラフトの魅力をアピールし、作り手と使い手との距離がぐっと身边に

問 高岡市デザイン・工芸センター tel 0766-62-0520

県内の若手クラフトマンが集まる「クラフトマンズ ギャザリング2005」が平成17年7月17・18日の両日、富山県産業高度化センターで開かれた。3回目を迎えた今回は、県内から20組が出展。夏の陽射しが差し込むガラス張りの会場には、色とりどりのブースが並び、金工、漆工、陶芸、木工、ガラスなど多種多彩な手づくり作品1,046点が展示・販売された。オープンと同時に朝早くから訪れる人の中には、親子連れや女性グループの姿も目立ち、高岡の夏のイベントとしてすっかり定着したようだ。

伝統的な着色技術を応用し、色の変化を生かしたテーブルや時計、鉄とガラスの組み合わせがモダンな花器、リネンにシルク印刷で野の草花をあしらったブックカバーなど、どれも独創的な趣向を凝らした作品ばかり。来場者は気になる作品を手にとって見入り、作り手たちは使い手(来場者)の意見や他の作家の作品に刺激を受けて、創作意欲を駆り立てられたようだった。来場者アンケートでも、「作り手の話が聞けて良かった」「レベルが高く見たえ十分」などの意見に加え、「もっと多くの作家の作品が見たい」という要望も寄せられ、このイベントへの期待の大さが伺える。

また、陶器の風鈴、とんぼ玉、七宝焼き、水草の寄せ植えの製作体験ができる「ワークショップ」もあり、大勢の人々が手づくりの魅力をたっぷりと満喫した。



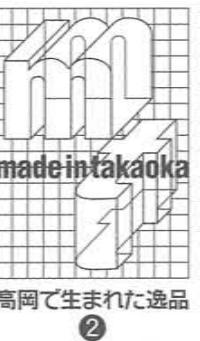
■このイベントは、高岡市デザイン・工芸センター、富山県総合デザインセンター、富山県産業高度化センターが共同で企画し、作り手と使い手との交流の場として2003年にスタート。以降、毎年夏に開催し、今回は約1,000人近いクラフトファンで賑わった。

心凜 [SHINRIN] 癒しの効果 仏具の新境地を切り拓く



高岡市、仏具の「おひと」でメロディーを奏で、人々を魅了している仏具メーカーがある。創業明治40年の老舗・山口久乗だ。社長の山口敏雄さんが、業界ナンバーワンのおりんを目指して4年前に始めた音色研究だが、おりんとパワーニュートラルで、その美しさと不思議な微妙に変えて音階をつけ、できた楽器が「久乗編鐘」。長く響く余韻が特徴で、そのメロディーはJR高岡駅と万葉線の発着音に採用され、銅器の町・高岡の知名度アップにひと役買っている。

演奏会で使った音楽家からは「心が洗われるよつだ」「癒された」と称賛の声が舞い込む。「」の音色の癒し効果は科学的にも実証されていて、リラックスした時の脳波であるδ波が増えるのです。実際に、毎日聞いてみるとエネルギーをもたらしているとエネルギーをもたらしている。それがおりん「心凜」を開発した。おりんはアイデア次第で、もっと暮らしの中に取り入れることができそうだ。



高岡で生まれた逸品



久乗編鐘の演奏風景。写真左は発車音を作曲した小矢部市出身の雅楽奏者太田豊さん。

技を伝える

伝統的工芸品技術・技法
継承者育成事業



17年度は川田純子さんが、時給と鑄絵で知られる高瀬竜一さんからマンツーマン指導を受けた。1年間しかも月に数回という中、盆、ブローチ、小物箱、三引き箪笥への加飾と密度の濃い内容となつた。川田さんは高岡短大で漆芸を専攻し、卒業後も会社勤めをする傍ら技術者養成スクールでも漆芸を学んだ。「これまで黒い漆塗りが多かったのですが、赤や青などのかつての高岡漆器の色合いも鑄絵も初めてです。一步踏み込んだ技術を丁寧に教わりました。ライフルワークとして続けていきたい」と話す。

育成者の高瀬さんは「彼女は仕事帰りや時には自宅でも作業をしたり熱心で根性があります。終盤で漆の本当の面白さもわかつてきたようですし、今後は目標を持って展覧会にどんどん出品してほしい」と期待する。



図表は川田さんが考案(左はブローチ)

技術者養成スクール修了制作展

当センターが実施している第19期伝統工芸産業技術者養成スクールの修了者(34名)の作品約100点が県産業高度化センターのホールで展示(3/18~21)された。金工の研究コースを修了した小林香さんの作品は花器へ肉合彫りや高肉象嵌などを施したものだ。小林さんは銀細工の打出しや仏具の彫金の仕事に携わっていることから、作品には得意とする打出しで作った蛙などをポイントしている。「教わった技術を仕事に活かして表現に広がりをもたせたいですね。なんにでも応用できそうなので、いろいろ思案してみたい」と、作品を前にして新たな意気込みを語った。なお、同会場では伝統的工芸品技術・技法継承者育成事業16、17年度育成者・継承者(2組)の成果品も合わせて展示された。



スクール受講生の作品(左の花器は小林香さんの作品)



沢田さん自らが製作したコクス炉。火花の具合や炎の色で温度を見極める。



バーツを組み立てる際に焰接と鑄絵で知られる高瀬竜一さんから受けた。1年間しかも月に数回という中、盆、ブローチ、小物箱、三引き箪笥への加飾と密度の濃い内容となつた。川田さんは高岡短大で漆芸を専攻し、卒業後も会社勤めをする傍ら技術者養成スクールでも漆芸を学んだ。「これまで黒い漆塗りが多かったのですが、赤や青などのかつての高岡漆器の色合いも鑄絵も初めてです。一步踏み込んだ技術を丁寧に教わりました。ライフルワークとして続けていきたい」と話す。

炉から取り出した六角の鋼鉄棒は、治具でねじられると植物の茎のような形状に変身する。この後すばやく、表面に発生した不純物をブラシで落とす。

ていた以上に鍛造の仕事が多いんですね。工房時代と同じような作業も鍛工所ならではの効率的な手法があつて驚きました。これはいまも仕事に生かしています」と、どんな経験も無駄ではないと実感したという。6年間の勤務を経て独立。だが、営業先で富山には鉄の文化が育っていないから、独立しても仕事はないと言わされたという。関東周辺の工房の多くはフエンスや門扉の仕事が中心だが、富山とりわけ高岡は鋳物の町でフエンスなどはブロンズやアルミ鋳造が常識だ。少ロットや一品ものなら鋳造より鍛造に歩があることや、鉄特有の風合いや重量感を理解してもらおうと地元の設計事務所や造園会社へ提案を続けたり、展覧会も啓蒙の機会として利用した。その甲斐あって依頼も徐々に増えてきた。また、鋳物の町・高岡ながら何でも作りましたからね。自分も鉄の風合いを生かしていろいろ提案して作っていきたい」と、ハンマーを振り下ろす後姿はまるで鍛造の伝道師のようだ。



「鍛造職人」 沢田 健勝 工房 IRON CHOP

YOUNG MEISTER
高岡を担う未来の匠 ⑤

熱く伝えたい 鉄の文化と魅力を



IRON CHOP
PERFORMANCE WORK

焼かれて真っ赤になった鋼鉄を、叩いたりねじったりすると、まるで粘土のように形を変える。「鉄は1300度で熔け始めるので、その手前で炉から出して作業に入ります」と話すのは高岡市創業者支援センターの一角に工房を構える鍛造職人の沢田健勝さん。鉄を熱する、曲げる、ねじる、叩く、延ばす。そして熔接、研磨、塗装、組立と、一連の作業はほぼ独りの手による。なかでも鉄をハンマーで叩き形作る作業は鍛造で最も重要な仕事で体力の要る仕事だ。「こんなにつらい仕事は続けれられないと思いました。最初は無闇に叩いていたんですけど、その後アンビルと鉄との反動でハンマーが上がってくることが体でわかつきました。でも夏場の仕事では10キロほど体重が落ちますが、この力を込めて叩くという行為がいまでは仕事の達成感のひとつですね」と軽やかに話す。

その後、富山へUターン。独立するには技術が未熟と感じ鍛工所で腕を磨いた。「鍛造を目指す修業の場として鍛工所がよく選ばれますですが、自分が想像していました」と修業時代を振り返る。

沢田さんは大学卒業後に山梨県にある工房の門を叩いている。「今もそうですが、当時も富山に鉄の工房はありませんでした。工房では技術はもちろんですが、作り手の内面が作品に表れるということから、いい加減な性格などを改めるといった精神的な部分も教えてもらいました」と修業時代を振り返る。

沢田 健勝 (さわだ けんしょう)

1972年生まれ。1992年国立高岡短期大学卒業。1994年アイアンワーク アトリエ アーム(山梨県)勤務、1997年同工房を退職し富山にUターン。2003年独立して工房IRON CHOP(アイアン チョップ)設立。問 IRON CHOP tel 0766-25-2513 Eメール iron_chop001@yahoo.co.jp

ハンマーをイメージしたIRON CHOPのロゴマーク。



室内に鉄のあるシーンを提案するための試作品。堅牢な鉄だから表現できる、脚の細いラインがシンプルで美しい。

壁を這うツガが鉄の階段に変身したように見えるユニークな店舗の非常階段。この他にも、沢田さんは店舗などの建築金物やサインなどを多数手がけている。

高岡発「素材と技術」レポート

⑧

モノづくりの町・高岡を下から支えているのが新しい素材や技術の開発。起業家精神に満ちあふれた技術者たちが日夜研究にいそしみ、新素材・新技術を生むべく努力している。

ここではその基礎となる新しい素材や技術の開発動向をレポートする。

鉛もカドミウムも含まない「めっき」開発 フランチャイズ展開で全国ヒットも可能に

シーケー金属株式会社

「RoHS(ロース)指令」をご存じだらうか。正式名称は割愛するが、和訳すると「電気・電子機器の廃棄物に含まれる特定有害化学物質の使用制限に関する指令」。健康や環境に対して有害な物質を、電気・電子機器での使用を規制するもの(本稿と関連する物質では、鉛-1.00%以下、カドミウム1.00%以下など)、2003年1月に欧州議会で採択され、06年7月1日以降に出荷される製品から適用されることになった。(別に「Eレバ指令」(廃自動車指令)もあり、RoHSの同様に有害物質の使用が規制されている)

RoHS規制値をはるかにクリア

この指令を受けてまます動き出したのは大手メーカー各社だった。素材や加工を徹底的に洗い出し、めっき



長さ12.5m、幅2.1m、深さ2.8mの大型めっき釜。同社にはこのほか中型1基、小型1基のめっきラインがあり、月当たりのめっき処理能力は小物で約700t、長尺物では約2000t。来年夏までには工場を新設し、最新ライン2基の増設を予定している。



鈴谷宏行社長

この「めっき」の優れているところは、めっきの回数は従来通り一回で済み、めっき槽がそのまま使えるため新たな設備増設が不要なこと。また、設備仕様に合わせて、めっきの温度とアルミニウム等の添加量を加減することで、どこでもこのめっき法を取り入れることが可能になったことである。

「めっき」と名づけられたこの新しい溶融亜鉛めっき法では、鉛の代わりにアルミニウム等を添加。特許の関係で詳細は紹介できないが、高周波炉で亜鉛、アルミニウム等を一定の割合で溶解し、その合金をめっきの地金とするものである。これはいわば、「めっきの素」といえる無鉛めっきのタネで、鉛の含有は0.02% (2000ppm)未満、カドミウム0.002% (20ppm)未満で、RoHSの規制値をはるかにクリアするものとなった。

年度より市内の漆器関係者と研究を開始。耐衝撃性、耐酸性、耐水性、耐候性(屋外暴露)など8種の試験を繰り返し、退色しにくい漆の製品化の目途が立った。

写真で紹介する例は、平成18年3月末に設置予定の漆看板。高岡漆器の特徴(彫刻塗り、螺綱)を生かしたこの看板は、土蔵造りの建物が並び明治期から昭和初期の面影を残す山町筋の町並みに設置される。

漆器関係者や、「観光地の木製サイン(案内板)などに使っていけば漆器のまち高岡のPRになるばかりでなく、漆製品の多様化、業界の活性化につながるのではないか」と、今後の展開に期待している。

実際、大手家電メーカー・ハウスメーカーが、自社商品の部品・部材の「めっき」を採用したたため、外注先のめっき工場が「めっき」を導入。こうした例がいくつも続き、全国的なフランチャイズ展開が現実のものとなった。

めっきは電気製品ばかりでなく、モニメントの台座や、鉄塔、リフト、橋脚などの大型構造物でも使用されるなど用途が広く、同社では、規制の本場・ヨーロッパでのフランチャイズ展開も視野に入れている。

Design Craft Center
事業案内



「めっき」が施された、同社の配管用端子。

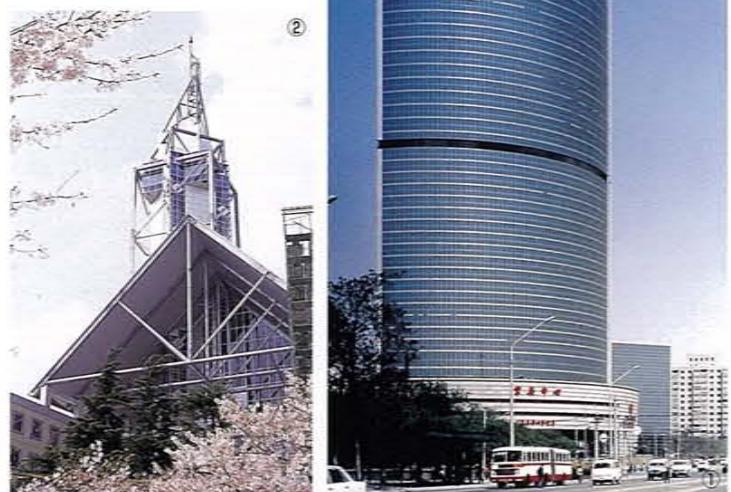


山町筋の町並み。秀吉から御車山を拝領した町を「山」と呼び、現在は国指定重要伝統的建造物群保存地区となっている。「高岡御車山祭」(5/1)ではこの町筋を御車山が曳かれる。漆看板が取り付けられるのは、左前方のパン屋「ポンジュール」。



制作途中の漆看板。
店のロゴには、金箔が貼られる。

めっきは、機械・機器の部品のほかに耐食性に優れているため大型構造物でも使われている。
①京広センタービル・アルミ下地(中国・北京)
②富山市役所モニュメント台座
③スキー場



めっきは、機械・機器の部品のほかに耐食性に優れているため大型構造物でも使われている。
①京広センタービル・アルミ下地(中国・北京)
②富山市役所モニュメント台座
③スキー場

choice

2005 TAKAOKA CRAFTS EXHIBITION
審査員が買ったクラフト

工芸都市高岡2005クラフトコンペティション審査員「今田龍子」

2005



今田龍子

Konta Ryuko
「婦人画報編集長」

1956年、山形県生まれ。青山学院大学卒業後、「81年、婦人画報社(現・アッシュト婦人画報社)入社。「婦人画報」編集部に配属され、現在に至る。04年より編集長。昨年は「婦人画報」創刊100周年にあたり、誌上での記念企画はもとより、全国で数々の記念イベントが開催された。



ムーヴィン 通販俱楽部

2005クラフト展作品誌上通販

手仕事のぬくもりを伝える 生活の道具たち

使うほど、時間が経つほどに、愛おしさがつのる…
そんな手仕事の魅力に気づかせてくれそうな、ぬくもりある生活の道具を入選作品の中からピックアップしました。ゆったりとしたくつろぎの時間をもちたい人に、ぜひ。

掲載の作品は、インターネットからご注文いただけます。

「ふくら」

小路口力恵(富山県)

●ぐい呑み ●ガラス ●カラー…ピンク・イエロー・ブルー・グリーン・グレー
●H4.0×φ7.0cm

価格 各5,775円



ホームパーティのセンスアップにひと役買ってくれそうな、愛らしいぐい呑み。その名の通りふくらとあたたかな風合いで、手にする人をやさしい気持ちにさせてくれる。全色揃えると、より使い道が広がりそう。



「Bowl S・M・L」

内田和弘(富山県)

●器 ●漆・漆・和紙
●S…H3.5×φ10.5cm
M…H4.0×φ13.5cm
L…H4.5×φ15.0cm

価格 S 2,100円
M 2,940円
L 3,675円

季節を問わず重宝する漆の器。深さも十分なので、汁物やかさのある果物にも使いやすく、洋風にも応用できる。庭のグリーンをあしらえれば、おもてなしの食卓に映えるセッティングのでき上がり!



「flower bowl」

折井宏司(富山県)

●花器 ●真鍮、アルミ
●小…W19.0×H6.0×D19.0cm
大…W23.5×H7.0×D23.5cm

価格 アルミ小 10,500円
大 15,750円
真鍮 小 13,650円
大 18,900円



※下記URLにリンクされている申し込みフォームをご注文ください。
※通販有効期限=平成18年9月末

<http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft/>

【注意事項】●ご注文が1万円以上の場合は、送料無料。●商品到着後9日以上経過したものや、お客様のもとで破損・汚損・傷が生じたものは、返品をお受けできません。●電話・ファックスでのご注文は受け付けていません。●商品は手作りのため、形状・色・寸法などに多少の差が出る場合があります。●商品によっては、ご注文から1~2ヶ月ほどお待ちいただくことがあります。また、数に限りがありますので、万一品切れの際はご容赦ください。●お支払い方法・送料等の詳細は、上記URLに明記されています。ご注文の際には、必ずご確認ください。

ロケ協力：アイフルホーム



撮影/大川裕弘

「審査会が終わったら、審査員はみんな一斉に本気モードで買い物に没頭します。それがこのコンペの伝統です」。会場に着くなり内田繁先生等が育てあげてきた高岡クラフトコンペです。何事も先生のおっしゃるとおり、964点にのぼる入選作品を審査しながら、いつしか私は、これにサラダを盛ろう、あれをバブルームに置こう、いやいや、やっぱりあっちがいい、と頭はすっかり買い物モード。内田先生の言葉は催眠術のようによく効いたのでありました。

というわけで、私が購入した作品のひとつが「やわらかな雨」と題された花器。真っ白な磁土とガラスで成形されたなんとも清澄なたたずまいです。この田中美佐さんの作品は獎勵賞に選ばれました。花器ですが、私は花を入れずにもっぱら窓辺に置いて楽しんでいます。朝は生まれたての光の中でかすかな青みを帯び、黄昏時は黄金色に染まり、ときにブラインドが作る光と陰のストライプをその身に纏う。今このときは刻々と動いて、同じ日は二度と来ないことを、窓辺の花器は教えてくれます。やわらかな曲線と透明な姿に、何事も静かに受容せよと諭されているような心持ちがするのは、私の気の弱りでしょうか。なにやら意味ありげに笑う内田先生は、私の胸の中を見透かしておられるよう。傍に置きたいと選んだものに、人の心は投影されることを、またひとつ確かめたクラフトコンペでありました。



島田邸



※つくりもんまつり／300余年の伝統ある「つくりもんまつり」のルーツは、お盆から8月末までの間、村々で行われた地蔵祭りである。やがて五穀豊穣を感謝して秋の収穫物を供えたことから、毎年9月23、24日に開催されるようになる。野菜や果物、草花を利用して趣向を凝らした作品は、歴史上の人事物や世相を反映する作品が並び、素朴でユーモラスな庶民芸術として知られている。

この通りが町並み景観の保全と継承に向けて動き出そうとしている。「街道には古い町家がもっとありましたが、改築したり空き家が増えたり、取り壊して青空駐車場になつたりしました。家並みが歯抜け状態になりました。だんだん景観が変わり、しかも若い人は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりました。住民からこのままではいけない大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

を石畳にするとか現状の家並みを統一して修景するなどは不可能なのだ。それは県道である旧北陸街道をほぼ倍の16mに拡幅する都市計画道路が昭和47年に決定しており、協議会は平成10年に発定したが、いかないま一度見直してみるために各町内に呼びかけタウンウォッチングしたのがまちづくり協議会発足のきっかけです」と語るのは、福岡町まちづくり協議会代表の大野嵩さん。同協議会は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりだんだん景観が変わり、しかも若い人は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりました。住民からこのままではいけない大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

を石畳にするとか現状の家並みを統一して

修景するなどは不可能なのだ。それは県道

である旧北陸街道をほぼ倍の16mに拡幅す

る都市計画道路が昭和47年に決定しており、

協議会は平成10年に発定したが、いかないま一度見直してみるために各町内に呼び

かけタウンウォッチングしたのがまちづくり

協議会発足のきっかけです」と語るのは、福

岡町まちづくり協議会代表の大野嵩さん。

同協議会は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりだんだん景観が変わり、しかも若い人は

外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりました。住民からこのままではいけない大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

を石畳にするとか現状の家並みを統一して修景するなどは不可能なのだ。それは県道である旧北陸街道をほぼ倍の16mに拡幅する都市計画道路が昭和47年に決定しており、協議会は平成10年に発定したが、いかないま一度見直してみるために各町内に呼びかけタウンウォッチングしたのがまちづくり協議会発足のきっかけです」と語るのは、福岡町まちづくり協議会代表の大野嵩さん。同協議会は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりだんだん景観が変わり、しかも若い人は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりました。住民からこのままではいけない大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

自らの町の 景観整備に向けて

「タウンウォッチングなどの活動を基に協

議会では風情ある町並みを生かした景観ブ

ランなどについて住民集会で話し合つたと

ころ、拡幅はしない方がいいという声が大

半でした。これらのプランに旧北陸街道の

交通量の調査資料をまとめて都市計画道

路の見直しを県に陳情しました。しかし前

例がないということもあってなかなか前に

進みません。(大野さん)

その後、福岡町(現高岡町)では平成15年に町全体の景

観づくりを推進する基本的

な考え方やその方向性を明

確にするための「福岡町景

観づくり基本計画策定委員会

が設立されました。

この通りが町並み景観の保全と継承に向

けて動き出そうとしている。「街道には古

い町家がもっとありましたが、改築したり空

き家が増えたり、取り壊して青空駐車場に

なつたりしました。家並みが歯抜け状態に

なりだんだん景観が変わり、しかも若い人

は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなり

ました。住民からこのままではいけない

大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

を石畳にするとか現状の家並みを統一して修景するなどは不可能なのだ。それは県道である旧北陸街道をほぼ倍の16mに拡幅する都市計画道路が昭和47年に決定しており、協議会は平成10年に発定したが、いかないま一度見直してみるために各町内に呼びかけタウンウォッチングしたのがまちづくり協議会発足のきっかけです」と語るのは、福岡町まちづくり協議会代表の大野嵩さん。同協議会は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりだんだん景観が変わり、しかも若い人は外へ出ていて高齢者の世帯が多くなりました。住民からこのままではいけない大きな課題にぶつかった。例えばこの通り

高岡市 福岡町 菅笠と“つくりもんまつり”から 訪れたくなる町へ

福岡町は広大な丘陵地と恵まれた田園地帯、そして旧北陸街道沿いに古くから菅笠商を中心にしてきた市街地からなる。平成17年には

高岡市と合併したが、福岡エリアならではの歴史や文化を継承した、賑わいづくりや

魅力ある町づくりに向けて行政と住民による計画が動き出した。



旧北陸街道の家並み

毎年9月下旬に福岡では300年余りの伝統を有する奇祭「つくりもんまつり」が2日間にわたって催され、人口1万3千人の町に近年では県内外から延べ10万人以上の観光客が訪れる。その舞台となるのは情緒ある街並みの町家が点在する旧北陸街道だ。福岡は江戸期から菅笠の産地として知られ、かつて街道沿いには多くの菅笠問屋などがひしめき活況を呈していた。明治・大正を通じて菅笠は全国に販売され、戦後はアメリカにも輸出していた。現在でも実用品のみならず、民謡踊りの花笠や民芸品の製作が盛んで全国シェアの9割を占めている。この通りはつば川駅からの国道8号を過ぎて間もなく遭遇するように出現するので、ちよとした発見気分に浸れる。古い町家はいすれも千本格子や漆喰下見板の外壁などの特徴がある。といふところに昭和初



会」を設置した。協議会の大野さんも委員会を務め、計画にはもちろん旧北陸街道の景観づくりも含まれる。「渡りに舟」という感じですが、その後、協議会と当時の福岡町とで県へ働きかけたことで富山県内の「未着手都市計画道路の見直しガイドライン策定」のきっかけを作ることができました。これから

期の時代を感じる洋風な建物もあつてしまつて間もなく遭遇するように出現するので、ちよとした発見気分に浸れる。古い町家はいすれも千本格子や漆喰下見板の外壁などの特徴がある。といふところに昭和初



ミユゼふくおかカメラ館／全国的に珍しいカメラ博物館で設計は建築家の安藤忠雄氏。主にクラシックカメラの収集・保存、展示などを行なうほか、有名写真家の作品展や作品の全国公募展を開催するなど、写真を通じてカメラの魅力を伝えている。



大きな祭事の日は人で賑わうものの、普段の町中は閑散としている。観光の目玉となるものが希少なので仕方がないのだろう。だが6年前から明らかに訪れる人が増えてきた。その中心的な施設がミユゼふくおかカメラ館(平成12年オープン)で町の観光拠点づくりの一環として建築された北陸初のカメラミュージアムだ。旧北陸街道を流れる桜の名所、岸渡川沿いに併む。ここには世界的な名品や珍品カメラ1500台余を収蔵し、50台ほどを常設展示、併せて写真の企画展などを開催している。鑑賞もすることながらユニークな建築を見学に来る人も少なくない。設計が世界的にも

賑わいづくりの核
ミユゼふくおかカメラ館とクロスゾーン

福岡町はつくりもんまつりをはじめとす

て来る人も少なくない。設計が世界的にも

たまゆら

家具調仏壇のおしゃれ度をさらに高めてくれそうな、オブジェ感覚のおりん。りん棒で叩くと、やじろべえのようにゆらゆら揺れて、癒し効果もたっぷりだ。もちろん、見た目の美しさや優しさだけでなく、音色や使い勝手の良さもとことん追求。りん棒の重心が低いので、あまり力を入れることなく上品でやわらかな音色を楽しむことができる。



りん／真鍮（しんちゅう）
H5.5×φ5.5cm 参考価格11,800円

りん棒／メープル、黒檀、花梨
W2.0×H7.8cm 参考価格2,500円

問(株)本保 tel0766・25・0025

りん棒は、場所をとらない優れモノ。おきあがりごぼしのように倒れても必ず起きてくれる。



rin

rin棒（黒檀）



2005年度
グッドデザイン賞受賞

3



かたり箱

灯華香

かたり箱／ローティス／ラウルス

ライフスタイルの多様化に伴い、祈りのあり方、安らぎのかたちもさまざま…。「かたり箱」はそんな今、いつでもどこでも大切だった人の心に触れ、語り合う場として生み出された祈りのスペース。プロダクトデザイナー・佐藤康三氏によるデザインは、和風、洋風、またリビング、書斎、ベッドサイドなど場所を選ばず、どこに置いてもしっくりと納まり、癒しと安らぎを与えてくれる。

かたり箱／ほうの木、桐、真鍮、漆、全箔／黒紫、朱
W21.0×H25.8×D15.7、W20.8×H32.5×D15.4cm 價格650,000円



ローティス

ラウルス

問「灯華香」事務局／(株)笠原昇雲堂 笠原 tel0766・21・1858

三協アルミニウム工業株式会社 立山アルミニウム工業株式会社

アルミモダンインテリアシステム AMIS [アミス] 折戸

今、アルミやクリア素材を主体とした、スタイリッシュなインテリアに注目が集まっている。そのブームの火付け役ともいえるのが「アミス」。Gマークを受賞した折戸の他、らせん階段、直線階段、手摺、ドアや引戸などの建具が同一のデザインイメージでラインナップ。それぞれを巧みに組み合わせれば、住まいをよりおしゃれに自分らしく演出できそうだ。

4枚折戸（中継無しタイプ）／
アルミニウム・シルバーマット仕上（標準）、樹脂パネル
W323.7×H235.0cm
参考セッタ価格474,000円（オプション及び取付代等別途）

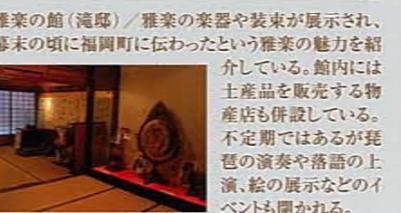
問三協アルミニウム工業（株）tel0766・20・2251
立山アルミニウム工業（株）tel0766・20・3313



4枚折戸

その名が知られている安藤忠雄氏だからだ。氏が手かけた建築物では小粒の規模だが、独特的のスタイルともいえる「コンクリート打ち放しが際だつ。展示室の庭側は柱梁で格子が組まれ全面開口部となる。このカメラ館を核として、賑わいづくりに向けた施設のオープンが相次いた。福岡町の伝統芸能をアピールしたお土産店「雅楽の館」、特産品の音笠を紹介する「音笠の館」などがそれだ。いずれも旧北陸街道に面した町家を利用しており運営はTMOの推進母体である株式会社ウエルカム福岡があたつている。

「福岡に元気と賑わいをとづつ」として、当時の町の計画を受けて平成12年度にTMO構想を策定しました。これに基づいて設立されたのが第3セクターのウエルカム福岡です。カメラ館の観光客を呼び込むために計画されたものです」と話すのは、中心市街地活性化に取り組んでいる福岡町商工会の主席経営指導員の中山清一さん。その後、



「音笠の館（流邸）／雅楽の樂器や装束が展示され、幕末の頃に福岡町に伝わったという雅楽の魅力を紹介している。館内には土産品を販売する物産店も併設している。不定期ではあるが琵琶の演奏や落語の上演、絵の展示などのイベントも開かれる。」

施設という器だけではなく、人が集まる施設づくりもウエルカム福岡は企画している。平成14年から冬期以外に毎月1回開催されるフリーマーケットと各種のイベントを組み合わせた「つくりもん市」がその代表だ。駅から岸渡川にかけての賑わい創出を狙つたものでウエルカム福岡は企画している。この市に福岡町商工会青年部のアマーケットは元々青年部が別のイベントで開いていたのを春の桜まつりでも実験的に始めてみたのです。花見期間中は歩行者天国があるだけで楽しみに欠ける。ならばフリーマーケットをやろう…。これが予想以上に好評で毎月開いてみようとしたところです。スタートしました。ウエルカム福岡の方を支援する格好で路上パフォーマンスを企画したり、福光の人力車や井戸のチンドン屋を呼んだりして毎回催しを考えました」と振り返るのは福岡町商工会青年部部長の中島秀恭さん。とりあえず3年間は継続しようと始めた。しかし回を重ねるごとに他の市町村のフリーマーケットとの競合関係や出店者やイベントのマンネリなどに陥ってか、集客にも影響が出てきたという。予定の3年を経過した今年から、内容や開催方法を見直すことにしている。

だが、つくりもん市は単にその日のイベントに人が繰り出すだけでなく、他の祭りの集客にも繋がっているようだと高岡市経済振興課の谷内則之さんは語る。「桜まつりに

は期間中に延べで5千人程度が訪れていましたが、数年前からその倍の1万人の人気がいらっしゃるようになりました。これは明らかにつくりもん市の効果でしょう。春先に市に来られて川沿いの美しい桜並木を初め見てくる人が多いんです。そういう方がリピーターとして花見にいらしてくれるのでしょう。もちろんカメラ館やお土産店などの施設も同様です。町が賑わいはじめたのはこれらの相乗効果の結果でしょう」。

福岡では国道8号の整備を始めたJR福岡駅前地区整備に向けても動き出したところだ。先の旧北陸街道の景観づくりやこれまで進められてきた中心市街地の活性策がさらに進展すれば、かつて音笠の産地として賑わった時代を彷彿とさせる空気に包まれるであろう。



町の有志で設立した「まちの駅ふくおか」や雅楽の館に隣接する食事処が開店するなど、駅から延びる通りと旧街道のクロスゾーンは活気を帯びてきた。

活性化へのソフトによる相乗効果

町の有志で設立した「まちの駅ふくおか」や雅楽の館に隣接する食事処が開店するなど、駅から延びる通りと旧街道のクロスゾーンは活気を帯びてきた。



つくりもん市のフリーマーケット